

彙報

眞宗學會

◇例會 五月二十七日

「宗教的實踐に就いて」

——特に久松眞一氏著「人間の眞實存」を批判對象として——

「人間の眞實存」なる小著のうちに、久松氏は眞宗批判と銘うつて一益的見解を披瀝し、所謂二益法門を不徹底なりと斷じられてゐる。座談會に於ては、氏が一益的見解の主張を、『佛教本來の立場』なる言を以てしていられる點が論議の焦點となり、鋭い追求が試みられた。

◇例會 六月十八日

「觀知」に就いて

武生護講師

御本書「證卷」御引用の涅槃經の文十四丁左「觀知」の訓方に就いて檢討を加え、「唯信鈔」「一多念鈔」等に出る『觀・知』なる語の依據を明らかにせんとされた。

◇例會 九月三十日(火) 午後一時

本願の分水嶺

曾我量深名譽教授

出席者 稻葉、正親兩教授、西道副手、外研究科、學生多數。

◇例會 十月三十日(木) 午後三時

教行信證に於ける行の概念

稻葉秀賢教授

出席者 名畑、日野兩教授、西道副手、永田副手、研究科、

學生二十六名。

佛教學會

◇例會 十月十一日(土) 午後一時

集量論について

荷葉堅正氏

出席者 山口會長、横超、山田各教授、佐々木(現)助教授、

安井講師、雲井助手、長谷岡副手、學生十二名。

論理學者陳那(Dignāga, Dignāga)の論理學上に於ける主著、集量論について、そのビブリオグラフィ、一論の構造、特に論理學上問題となる似現量に關して研究の成果を發表さる。

佛教史學會

◇例會 六月十三日

眞宗教團の基礎構造

北西助手

◇故日下教授御遺藏品展 六月十四日

大谷史學大會に際し、故教授多年にわたる御蒐集品の内、古寫經、古刊經、御文等二十二點、御著書八點、原稿並に書蹟八點を出展した。

◇(七月六日) 北九州見學旅行の途につく。

藤島教授指導、北西助手、學生九名參加。

(七月七日) 博多着、聖福寺、東公園、宮崎神宮を見學後、太宰府神社に向ひ、都府樓址、觀世音寺、戒壇院を見學。

(七月八日) 長崎に向う。

博物館、崇福寺、大浦天守堂、出島和蘭商館址を見學。

(七月九日) 長崎發、諫早より島原經由熊本に向う。途中島原城址見學。熊本城見學。

(七月十日) 水前寺成趣園見學。水前寺より阿蘇に向い、バスにて登山。下山後、宮地町の阿蘇神社見學、その樓門の宏壯に驚く。別府に一泊、翌朝解散す。

◇總會 九月二十七日

本學期の學會行事等を議し、委員改選を行う。正委員星名、副委員稻葉、會計城の三君が選出された。

哲學倫理學會

◇例會 五月二十九日(木)

「カントの原罪説」

助手 阿部行人

「Mennunges Man against Himself をよみ」

學三 清徳光文

◇例會 六月二十六日(木)

「バスカルの penser についで」

助手 西井元昭

「ヘーゲルの Nichtsein とハイデッガーの Nichts に

學三 加藤隆生

◇特別講演會

六月十四日(土) 午後一時より、本學講堂に於て、テネシー南部大學教授ハワード・ジョンソン氏の、「キエルケゴールに於ける實存の諸段階とその相互關係」なる題目の下に講演會を開いた。(通譯は有賀鐵太郎氏。)

◇例會 十月二日(木) 三時

出席者 世良、立花、大谷教授、阿部助手、學生數名。

辯證法的矛盾

學三 喜里山博之

Jaspers の das Umgreifende についで

世良教授

ヤスパースの實存哲學の基礎的概念たる、包括者、の概念の性格について、又その諸様態の關係を説かれ、更にそれに至る迄のヤスパースの思想經歷に迄言及された。

社會學會

◇歡迎會並に總會 五月十二日午後三時

本年度は、新たに豊島覺城氏を講師に迎え、同講師並に新入會員四名の歡迎會を行う。

出席者 白井豊島、池田各教授、學生二十七名。

續いて總會を開催、委員の改選を行ひ左の諸君が選出された。
舊學三國門彰量、新學四林文憲、新學三飯居力。

◇會報 (第四號) 五月發行 内容左の如し

村落調査を願て

白井二尙

組成集團の實證的研究に就て

池田義祐

檀徒集團の社會的性格の一考察

堀尾昌純

音楽と調和

千葉了昭

二つの世界大戰後の歐米社會學に就て

唐川越雄

學會近況並に題目

◇例會 十月十四日 午後三時

出席者 池田助教授 學生十二名

「農村社會の氏子、檀徒二集團に就て」堀尾助手

◇本年度日本社會學會が十月二十五・六兩日東京で開催され、

池田助教授、堀尾助手、唐川越雄三氏参加、池田助教授は、

左の講題で研究報告を行った。「農村の集團的統一性の基礎」

宗教學會

◇東洋民族博物館見學 五月二十三日

陳列品は主として中國、西藏、印度、フィリピン、南方諸島出土の資料であるが、儀式祭禮等土俗信仰に關するものがその殆んどを占め、東洋諸民族の諸宗教形態を具體的な一面から窺い得た。

國史學會

◇桂離宮見學 五月三十一日

◇研究發表會並に例會 六月二十八日

戸口について

初期佛教の地方弘通

親鸞の歸洛について

富山大學助教授、梅原隆章氏

◇史蹟踏査 六月二十九日 太秦方面

雨天の爲參加者が少數であつたが、心ゆくまで廣隆寺及び法金剛院の古美術を觀賞出來た。

◇九月例會

出席者 三品教授以下學生三十餘名

二學期に行う學會諸行事の計畫をなす。

◇史蹟踏査 十月十九日(日) 八瀬、大原方面

參加者 山田助手以下學生七名

三千院、寂光院、來迎院、勝林寺等秋の大原の史蹟を探る。

參加人員は少なかつたが、快晴に恵まれ、終日楽しく大原の史蹟を見學出來た。

◇例會 十月二十五日(土) 參加人員十六名

卒業論文中間發表表を行う

國文學會

◇輪讀會

「去來抄」每週火曜、自一時至三時

現在、同門評を輪讀中。

出席者 多屋教授、岩見講師、山本助手、湯岡副手、學生數名。

名。

「平家物語」每週火曜、自三時至五時

現在、卷四を輪讀中。

出席者 多屋教授、山本助手、湯岡副手、波多野氏、鷺山氏

關山氏、學生數名。

◇例會 九月二十八日(日) 十時

「虛栗」について

能作書について

出席者 山本助手、湯岡副手、大島氏、波多野氏、寺澤氏、

鷺山氏、乾氏、水田氏、學生數名。

◇例會 十月二十六日(日) 十時

蒼虬の研究

鎌倉初期の「シ」について

出席者 岩見講師、山本助手、湯岡副手、大島氏、乾氏、水田氏、學生數名。

乾 憲雄氏

湯岡 副手

山本 助手

波多野國豐氏

東洋史學會・支那學會

◆中國學會 十月十八・十九兩日

慶應大學に於て中國學會が開催され、本學より中田教授が出席された。十八・十九日午前九時より三時迄研究發表があり、若い學士の活潑な發表に期待すべきものが多かつた。十九日午後三時より同大學演說館に於て總會が舉行された。出席者、全國より百數十名、本學學生、平野、廣山の二名も見學のため參加した。同時に早稻田大學にて開催の道教學會にも出席し、都内、國會圖書館等をも見學した。

◆例會 十月二十八日 午後三時

「松漠記聞」について 大阪外大教授

外山軍治氏

松漠記聞の撰者、宋の洪岐の略傳とその一族の概略、當時の遼金宋三國の關係、洪岐の北使とその歸宋後の情勢等について述べられ、ついで松漠記聞の重要性、特に渤海國關係の記事について興味深い解説を行はれた。

出席者 中田、諏訪、野上教授、畑中助手、學生六名。

大谷大學研究年報

第五輯

昭和廿七年十二月發行
A5判 三九〇頁

(内容)

ゲーテの自然研究におけるイデー

大庭米治郎

本願における諸問題

日野 環

竺道生撰「法華經疏」の研究

横 超 慧 日

平安時代における宗教的自覺過程

藤 島 達 朗

教育社會における學校の地位

前 田 博